

20180814 那賀町木頭和無田での「ヒトボシ」

毎年8月14日早朝に集落の人が河原にあつまり「ヒトボシ」をする。常の仏は河原に祀り場を立て、水をくんで帰り、家の仏壇に供える。

初盆、新仏には石を積んでおおきな祀り場をつくり、親戚が集まって「ヒトボシ」をする。水を汲みに来ている集落の人も全員拝んでくれる。



写真1 常の仏の祀り場。櫛（シキミ）と「カナバ」という火を灯すための木材の削りかけが立てられる。



写真2 祀り場で家の仏壇に供えるための水が汲まれる。これが仏様を迎える方法という。



写真3 初盆、新仏のための祀り場に火が灯されたところ。積んだ石の上に青竹の束が置かれ、その上で「カナバ」が燃やされる。左手後ろ側に新仏の親族が立ち、右手前側に順に拝んでいく集落の人たちが位置する。



写真5 新仏の祀り場を拝んだ人たちは、家々の常の仏の祀り場に散米して拝み、家に戻って行く。